

製品名: FOP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11067**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	FGFR1OP
別名	FGFR1OP; FOP; FGFR1 oncogene partner
遺伝子 ID	11116.0
SwissProt ID	O95684
免疫原	抗血清は、ヒト FGFR1 オンコジーンパートナー由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 341-390

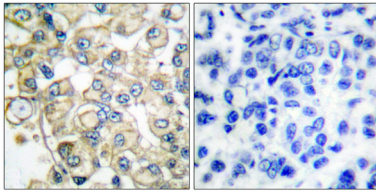
背景

FGFR1 がん遺伝子パートナー(FGFR1OP) ホモサピエンス この遺伝子は、微小管を細胞内構造に固定するために必要な、主に親水性の

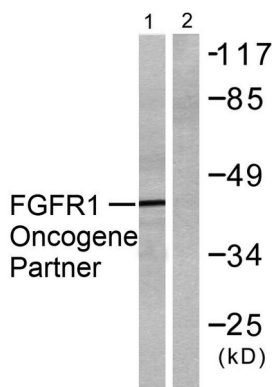
中心体タンパク質をコードしています。骨髄増殖性疾患の症例では、この遺伝子と線維芽細胞増殖因子受容体 1 (FGFR1) 遺伝子が融合した t(6;8)(q27;p11)染色体転座が認められています。結果として生じるキメラタンパク質には、このタンパク質の N 末端ロイシリッチ領域が FGFR1 の触媒ドメインに融合されています。この遺伝子の変異は、クローン病、バセドウ病、および白斑にも関連している可能性があります。異なるタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。 [RefSeq 提供、2013 年 7 月];疾患: FGFR1OP に関連する染色体異常は、幹細胞性骨髄増殖性疾患 (MPD) の原因となる可能性があります。転座 t(6;8)(q27;p11)と FGFR1 の融合タンパク質です。MPD は、骨髄増殖症、好酸球増多症、T 細胞性または B 細胞性リンパ芽球性リンパ腫を特徴とします。一般的には、急性骨髄性白血病へ進行します。融合タンパク質 FGFR1OP-FGFR1 または FGFR1-FGFR1OP は、恒常的なキナーゼ活性を示し、形質転換活性に関与している可能性があります。機能: 微小管を中心体に固定するために必要です。類似性: 1 つの LisH ドメインを含みます。細胞内局在: γ -チューブリンと関連しています。サブユニット: ホモ二量体。CEP350、FGFR1OP、MAPRE1 を含む三元複合体の一部。CEP350 および MAPRE1 と直接相互作用する。組織特異性: 普遍的。心臓、肝臓、筋肉、腎臓、腸管、結腸、副腎、前立腺、精巣、膵臓で高発現する。

研究分野

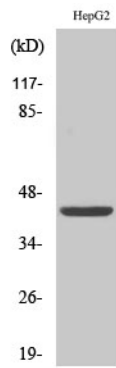
画像データ



FGFR1 オンコジーンパートナー抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



FGFR1 オンコジーンパートナー抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



FOP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析